

静岡がん会議

2024

DXで切り拓く新しいがん医療と医療田園都市構想

令和7年3月1日(土)

静岡県立静岡がんセンター研究所

主催

静岡県

静岡がんセンター

(公財)ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバーセンター

開催趣旨

デジタル技術は、今や私達の生活や仕事に欠かせません。国は2024年6月に「デジタル社会の実現に向けた重点計画」を閣議決定し、デジタル技術による成長戦略、医療・教育などの分野のデジタル化、地域の活性化など、目指す6つの姿を示しました。

静岡がん会議2024は、「DX（デジタルトランスフォーメーション）で切り拓く新しいがん医療と医療田園都市構想」をテーマとして開催します。がん医療やその研究においては、個々の分野のデジタル化にとどまらず、豊富な情報を統合し医薬品や医療機器開発につなげる取り組みが加速しています。ファルマバレー・プロジェクトでは、高齢者にも優しいスマート社会の実現を1つの柱とする医療田園都市構想を推進しています。本会議は、これらの取り組みについての議論を深め、がん医療や地域社会の変革につなげていくことを目的に開催します。



静岡県立静岡がんセンター 総長 上坂 克彦

静岡がん会議2024 | 令和7年3月1日(土) 静岡がんセンター研究所しおさいホール

プログラム

テーマ： DXで切り拓く新しいがん医療と医療田園都市構想

10:30 主催者挨拶 鈴木 康友（静岡県知事）

10:40 実行委員長挨拶 上坂 克彦（静岡県立静岡がんセンター 総長）

第1部：がん医療とDX

10:50 基調講演1 医療DXの推進について
杉山 朋宏（厚生労働省医政局参事官〈特定医薬品開発支援・医療情報〉付医療情報室 室長補佐）

11:20 講演1 デジタル技術がもたらすがん外科治療の未来
塩見 明生（静岡県立静岡がんセンター大腸外科 部長）

11:40 講演2 病理診断におけるデジタル革命
杉野 隆（静岡県立静岡がんセンター病理診断科 部長）

12:00 昼食／休憩（60分）

13:00 講演3 進取果敢 デジタル技術を活用した臨床試験
勝又 信哉（静岡県立静岡がんセンター呼吸器外科 医長）

13:20 講演4 中国のがん診療における人工知能の進歩
程向东（浙江省腫瘍病院 病院長〈胃外科〉）

13:40 講演5 電子カルテを基盤とするDX
鈴木 一洋（公益財団法人がん研究会 有明病院 医療情報部 副部長）

14:00 第1部 質疑応答（10分）

14:10 休憩（10分）

第2部：医療田園都市構想におけるスマート社会の実現に向けて

14:20 基調講演2 医療田園都市構想～超高齢社会の理想郷づくり～
山口 建（静岡県立静岡がんセンター名誉総長 兼 理事）

14:50 講演6 クラウドを活用したスマートシティの構築
水島 洋（元 アマゾンウェブサービスジャパン合同会社 シニア事業開発マネージャー）

15:10 講演7 アップデートするまちづくり（タウンマネジメントと健康意識を高める仕掛けづくり）
熊谷 一義（パナソニック ホームズ株式会社 都市開発事業部 プロジェクト推進部 部長）

15:40 全体討論

16:10 閉会挨拶 上坂 克彦（静岡県立静岡がんセンター 総長）

*講演のテーマにつきましては、変更する場合があります。ご了承ください。

講師プロフィール／講演要旨

第1部：がん医療とDX

基調講演1

医療DXの推進について

講 師

杉山 朋宏 (厚生労働省医政局参事官(特定医薬品開発支援・医療情報)付医療情報室 室長補佐)



経歴・研究活動等

2002.3	東京大学工学部卒業
2004.3	東京大学大学院新領域創成科学研究科修了
2004.4	IT企業入社
2023.4	厚生労働省入省
	厚生労働省医政局参事官 (特定医薬品開発支援・医療情報)付医療情報室 室長補佐

医療・介護分野でのDXを通じたサービスの効率化・質の向上を実現することにより、国民の保健医療の向上を図るとともに、最適な医療を実現するための基盤整備を推進するため、令和4年10月に総理を本部長とする医療DX推進本部が発足し、その後、令和5年6月に、医療DXに関する工程表が策定された。現在、政府において工程表に則り取組が進められているが、本演題では、医療DXに関する厚生労働省の最近の取組について紹介する。

講演1

デジタル技術がもたらすがん外科治療の未来

講 師

塩見 明生 (静岡県立静岡がんセンター大腸外科 部長)



経歴・研究活動等

2000.4.1～2002.3.31	京都府立医科大学附属病院外科
2002.4.1～2004.4.30	市立福知山市民病院外科
2004.5.1.～2007.3.31	国立がん研究センター東病院 大腸骨盤外科 レジデント
2007.4.1～2007.12.31	国立がん研究センター東病院 大腸骨盤外科 がん専門修練医
2008.1.1～ 2011.4.1～ 2017.9.1～現在	静岡県立静岡がんセンター 大腸外科 副医長 静岡県立静岡がんセンター 大腸外科 医長 静岡県立静岡がんセンター 大腸外科 部長

受賞歴

2014	第114回日本外科学会定期学術集会 優秀演題賞
2015	2015年度 大腸癌研究会 優秀論文賞
2020	第58回日本癌治療学会最優秀演題賞
2020	第120回 日本外科学会定期学術集会 (WEB開催)高視聴率賞

2020 日本外科学会Best Reviewer Award授賞

政府は目指すべき未来社会の姿としてSociety5.0を提唱している。Society 5.0で実現する社会は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことが期待されている。

そして外科もDigital Surgeryと呼ばれるSurgery3.0の時代へ向かっている。Surgery3.0では先進的な技術の導入、たとえばAI(人工知能)の活用、VR(仮想現実)技術、ロボット支援手術などがありますます一般的になる。

本講演では、デジタル技術がもたらす、がんに対する外科治療の現在と未来について紹介する。



講演2

病理診断におけるデジタル革命

講 師

杉野 隆（静岡県立静岡がんセンター病理診断科 部長）



経歴・研究活動等

1984.3	福島県立医科大学・医学部卒
1984.4	同医学部・病理学第二講座(現基礎病理学講座)助手
1994.6	英国オックスフォード大学ジョン・ラドクリフ病院
--1996.5	ナッフィールド病理学講座へ留学
2008.4	福島県立医科大学・医学部・基礎病理学講座 准教授
2012.6	静岡県立静岡がんセンター病理診断科、医長
2016.4	同 部長
研究分野	がんの転移、乳がん・胃がんの病理診断と病態解明
受賞歴	日本病理学会学術研究賞

病理診断は組織標本を観察し、病気の確定診断をする業務です。今まででは、顕微鏡を用いるアナログな手法でしたが、最近では、標本をデジタル画像化し、コンピューター上で病理診断ができるようになりました。これをもとに、インターネットを介した遠隔地診断やAIを用いた病理診断の支援システムの開発が進んでいます。これらの技術は、病理診断の精度向上や病理医の不足・偏在の解消につながると期待されます。本講演では病理診断におけるデジタル革命についてご紹介します。

講演3

進取果敢 デジタル技術を活用した臨床試験

講 師

勝又 信哉（静岡県立静岡がんセンター呼吸器外科 医長）



経歴・研究活動等

2011.3	群馬大学 医学部医学科 卒業
2011.4	社会福祉法人三井記念病院 外科
2016.4	国立がんセンター東病院 呼吸器外科
2020.3	順天堂大学大学院 医学博士課程 修了
2021.4	静岡県立静岡がんセンター呼吸器外科 副医長
2024.4	静岡県立静岡がんセンター呼吸器外科 医長
受賞歴	<ul style="list-style-type: none">Best Abstract Award, 174th regional meeting of Japanese Association for chest SurgeryBest Oral Presentation Award, 9th Asian Thoracic-Surgical Club biennial conference

骨太の方針を礎に医療のデジタルパラダイムシフトは今後も確実に歩みを進める。在宅期間のライフログデータを含むパーソナルヘルスレコードの包括的利用は、新たな患者中心型医療と機会均等化を実現する鍵となる。デジタル技術の臨床利用には産学官三位一体の取り組みと患者・医療者双方の理解やデジタルリテラシー育成が不可欠であり、海外に後れを取る本邦では正に過渡期と言える。当科でのデジタル技術を活用した臨床試験への挑戦と展望をご紹介する。

講演4

中国のがん診療における人工知能の進歩

講 師

程向东（浙江省腫瘍病院 病院長（胃外科））



経歴・研究活動等

1997	浙江大学医学部 臨床医学学士取得
2001	浙江大学医学部 外科学修士取得
2006	フンボルト大学 外科学博士取得
現在	浙江省腫瘍病院病院長、 中国抗癌协会副会长 胃外科教授、 科学技術部国家重点研究開発計画主任研究員、 浙江省上部消化管腫瘍予防・制御・診断治療重点実験室 主任研究員、 浙江省腫瘍分子診断・知能スクリーニング国際科学技術協力基地 主任研究員等を務める

本報告では、中国の医療分野における人工知能(AI)の最新の進歩をまとめ、基礎理念から早期スクリーニング、診断・治療支援、予後評価など各段階の革新的応用について述べる。特に深層学習に基づく画像診断、マルチモーダルAIによる精密診療、統合医療のインテリジェント化の探索に重点を置く。また、大規模言語モデルや連合学習などの最先端技術のがん診療に対する応用について検討する。さらに、データの品質、モデル解釈などの重要な課題を分析し、開発戦略の方向を示し、がんの精密医療におけるAIの役割について考察する。

講師プロフィール／講演要旨

講演5

電子カルテを基盤とするDX

講 師

鈴木 一洋 (公益財団法人がん研究会 有明病院 医療情報部 副部長)



経歴・研究活動等

2000.3	東京大学工学部機械工学科 卒業
2017.3	国際医療福祉大学大学院 保健医療学修士 (保健医療学専攻 放射線・情報科学分野 卒業)
2000.4	横河電機(株) 入社
2014.4	放射線部門における医療情報システムの開発・保守に従事
2016.10	横河医療ソリューションズ(株)へ転籍
2022.4	がん研有明病院 着任
2023.8	がん研有明病院 医療情報部 副部長 SIP第3期「統合型ヘルスケアシステムの構築」 【テーマB-1: がん診療についての統合的臨床データベースの 社会実装】研究開発責任者

医療提供の実態あるいはそのアウトカムの把握等の観点から、各学会を中心に行なわれている症例登録事業が大変重要な活動であることは言うまでもない。しかし、そのためのデータ管理や登録作業の多くが人海戦術になっている状況もあり、労働人口減少や働き方改革が言われる昨今、手作業からの転換は喫緊の課題である。当院は、2017年から独自のデータベースシステムを開発し、電子カルテのテンプレート記載を半自動的に取り込み、症例データとして管理し、症例登録用データに変換して出力するシステムを構築した。最新の運用状況と今後の展望を紹介する。

第2部：医療田園都市構想におけるスマート社会の実現に向けて

基調講演2

医療田園都市構想～超高齢社会の理想郷づくり～

講 師

山口 建 (静岡県立静岡がんセンター名誉総長 兼 理事)



経歴・研究活動等

1974	慶應義塾大学医学部卒業
1976	国立がんセンター研究所内分泌部研究員
1999	国立がんセンター(現・国立がん研究センター)研究所 副所長
1999	宮内庁御用掛(併任、2005年まで)
2000	世界がん研究機構(IARC)科学評価委員会委員(2004年まで)
2002	静岡県立静岡がんセンター総長 (兼)研究所長(兼)疾病管理センター長、静岡県理事(併任)
2014	慶應義塾大学客員教授(併任)
2018	厚生労働省がん対策推進協議会会長(2022年まで)
2020	内閣官房健康・医療戦略推進本部 ゲノム医療協議会構成員
2023	静岡県立静岡がんセンター名誉総長 兼 理事
2024	公益財団法人高松宮妃癌研究基金 理事長(併任)

受賞歴

2000	高松宮妃癌研究基金学術賞
2014	国際腫瘍学バイオマーカー学会 ABBOTT 賞

静岡県による本構想は、ファルマバレープロジェクトの一環として、「超高齢社会の理想郷づくり」を目標とした試みである。その具体化に向けて、「スマート社会の実現」、「ウェルビーイングの向上」、「都市機能の強化と産業活性化」、「地域愛着につながる文化・教育・観光の推進」、「医療・福祉・介護の充実」をテーマに、12項目の行動計画を策定し、構想参加の12市町との協働を開始している。

講演6

クラウドを活用したスマートシティの構築

講 師

水島 洋 (元 Amazon ウェブサービスジャパン 合同会社 シニア事業開発マネージャー)



経歴・研究活動等

1988	東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了 薬学博士
1988	国立がんセンター研究所 リサーチアソシエイト、研究員、主任研究官
1994	国立がんセンター研究所 がん情報研究部 室長
2000	国立がんセンター研究所疾患ゲノムセンター併任 米国NIH留学
2006	東京医科歯科大学 情報医学科学センター助教授
2009	東京医科歯科大学 オミックス医療情報学講座 教授
2011	国立保健医療科学院 上席主任研究官
2017	国立保健医療科学院 情報センター長
2020	厚生労働省 併任(コロナ対策)
2021	国立保健医療科学院 定年退官
2022	Amazon ウェブサービスジャパン シニア事業開発マネージャー

受賞歴	
1994	国立がんセンター研究所 田宮賞
2017	WHO-FIC 年次総会 ポスター賞
2018	WHO-FIC 年次総会 ポスター賞
2024	Amazon ウェブサービス Awsome Award

医療のデジタルトランスフォーメーション(DX)が推進される中、各地で進んでいるスマートシティ構想の中でも医療を扱うものは多い。そのような取り組みの中、サーバーや記録装置をネット上に安全に置いたクラウドを活用したものが多くなっている。

今回、クラウドやそのうえで活用されはじめている人工知能(生成AI)についての解説をするとともに、スマートシティの中で用いられている事例や今後の展望について紹介する。

講演7

アップデートするまちづくり(タウンマネジメントと健康意識を高める仕掛けづくり)

講 師

熊谷 一義 (パナソニック ホームズ株式会社 都市開発事業部 プロジェクト推進部 部長)



経歴・研究活動等

2000.3	東京理科大学 大学院(工学研究科 建築学専攻) 卒業
2000.4	ナショナル住宅産業株式会社 入社
2002.10	パナホーム株式会社 首都圏環境開発支社 設計センター
2014.10	同 分譲技術部 東部街づくり設計グループ チーフマネージャー
2018.10	パナソニック ホームズ株式会社
	分譲技術部 東部街づくり設計課 課長
2020.10	同 複合プロジェクト推進部 伊達プロジェクト推進室 室長
2024.4	同 プロジェクト推進部 部長

戸建・マンション・アセットの設計・監理、事業用地開発に携わる。藤沢市のスマートタウン「FujisawaSST」、東北復興関連等、様々なプロジェクトに参加。自治体・地元企業・地元住民と共に創し郊外型スマートタウンを創る考え方を『Up DATE City構想』としてまとめ、福島県伊達市にて実践。

本公演では、タウンマネジメント・タウンサービスを導入し、社会課題解決型・持続可能なまちづくりの実現を目指した福島県伊達市での取組事例を紹介する。

